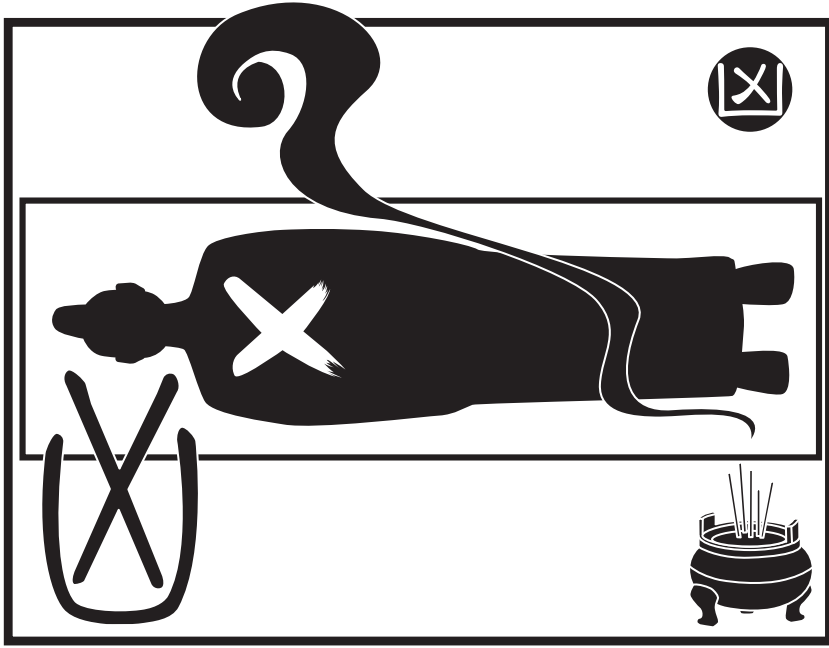


白川静のことば  
《21》



金子都美絵・画

×は極度の否定を意味している。それは死への恐怖、死の汚穢に対するものであった。死は兇懼きょうくの果てにあるものであった。その死者の胸部に、この否定標識が加えられる。胸部の□形の中央に×を加えて、ここに凶悪のあることを示す。その字が凶である。匈きょうはこれに人の側身形の勺ぼうを加えた形で胸の初文。匈は胸さわぎ、胸は匈に身体の限定符である肉を加えた形である。兇懼の人を兇きょうという。凶を強調した人の姿である。

しかし×は、ただ兇懼を示すのみではない。兇懼のあるところは、また他に対する脅威としても機能するものである。〈中略〉×は凶悪、兇懼の記号であるが、同様にその凶悪、兇懼を祓う呪禁としての機能をもつものであった。たとえば死者の霊を安んじ、邪霊の憑依することを防ぐ呪禁としても、この記号は極めて有効であった。

〈中略〉

否定の記号である×は、単純な否定に終わるものではなく、死を通して復活することの記号的象徴である。そこに一種の美学があった。

『文字道遥』平凡社 p289～293 より部分的に抜粋

